

4-1-17 薬剤部

1. 概要、特色

薬剤部では、当センターの特色であるIT化における機器を積極的に活用し、薬歴データベースの構築とリスクマネジメントに大きく関与している。

新たな業務として平成15年11月から周産期診療部と薬剤部の共同で開始した「妊娠・授乳と薬」相談外来も着実に患者数が増加しており、17年度からの「妊娠と薬情報センター事業」の開始に向け準備を進めている。一方、開院当初から継続して実施している小児用医薬品の適応外使用の改善と小児治験の推進を目的とした多施設共同研究もその成果が評価され、17年度から厚生労働省の新規事業「小児薬物療法根拠収集事業」が当センターを中心に開始されようとしており、薬剤部は成育医療で使用される医薬品の適正使用に対する情報収集及び情報発信に積極的に関わっている。

- 1) 薬歴データベースは、従来から行われていた処方歴の蓄積ではなく、患者様へ実際に医薬品が投与された際に記録される実施歴を蓄積している。これは、将来疫学調査等による小児薬用量の設定や妊婦・授乳婦への医薬品の投与歴からの安全性情報の収集に活用が期待されている。
- 2) リスクマネジメントでは、薬剤部にて調剤を行った医薬品に対してバーコードを付与することにより、患者様への誤投与防止に役立っている。
- 3) 医薬品情報管理業務としては、特に周産期・小児の薬物療法の情報収集に取り組み、公表されている最新の学術文献をベースに医薬品情報を提供している。その情報を基に平成15年11月より周産期診療部との協力で、「妊娠・授乳と薬」相談外来を開設し、薬剤師もスタッフとして外来に参加し、患者様から好評を得ている。医薬品を妊娠中に服用した場合の胎児への影響については、現時点では十分な臨床情報は蓄積されておらず、また情報を体系的に活用できる体制になっていない。服用中に予期せず妊娠した場合、中絶が行われたり、妊娠中適切な医療を受ける機会を逸することがあるため、情報の収集及び情報提供の改善が求められており、17年度より当センターに「妊娠と薬情報センター」を設置して事業を展開していく。
- 4) 当センター薬剤部を中心とする多施設共同研究として、小児科領域における薬物療法の適正化を目指し、医薬品適応外使用の改善及び小児科領域の治験・臨床試験の推進に向けて小児薬物療法ネットワークを利用した適応外使用医薬品実態調査や小児に関わる添付文書記載のあり方の調査など実施し、規制当局及び製薬企業に問題提起を行っている。

2. 平成16年度薬剤部員

薬剤部長：石郷岡均

副薬剤部長：飯島道生

主任薬剤師：石川洋一、相良眞一、川島昌美、松倉範明、筒井秀知、坂本治彦

薬剤師：伊藤博、三富玲、中島研、富澤宣明、林希実子

賃金薬剤師：深田暁子、石井真理子

非常勤薬剤師：山下和也、大月遊、熊田稚子、比留間康二郎

薬剤助手：関根純子

<転入>

筒井秀知（H16.4.1～ 主任薬剤師、独立行政法人国立病院機構 埼玉病院より転入）

松倉範明（H16.4.1～ 薬剤師 主任薬剤師、独立行政法人国立病院機構 災害医療センターより転入）

川島昌美（H17.1.1～ 主任薬剤師、独立行政法人国立病院機構 栃木病院から転入）

<採用>

比留間康二郎（H16.4.16～ 非常勤薬剤師、採用）

熊田稚子（H16.7.1～ 薬剤助手、採用）

山下和也 (H16.7.16 ~ 非常勤薬剤師、採用)

大月 遊 (H17.3.16 ~ 非常勤薬剤師、採用)

<配置換え>

熊田稚子 (H16.10.1 ~ 薬剤助手 非常勤薬剤師、配置換え)

相良眞一 (H17.1.1 ~ 無菌製剤主任 調剤主任、配置替え)

<転出>

山口正和 (H16.4.1 ~ 主任薬剤師、国立がんセンター東病院へ転出)

荻原正嗣 (H17.1.1 ~ 主任薬剤師 副薬剤科長、独立行政法人国立病院機構 甲府病院へ転出)

<退職>

西村好子 (H16.6.30 薬剤師、退職)

新倉輝子 (H17.2.28 薬剤師、退職)

3. 平成 16 年度業務実績

- 1) 処方せん枚数：入院 74,649 枚、外来院内 19,406 枚、外来院外 75,710 枚
 - 2) 注射処方せん枚数：入院 243,891 枚、外来 22,330 枚
 - 3) 薬剤管理指導：実施患者数 976 人、請求件数 391 件、退院時服薬指導加算 211 件
 - 4) 薬剤情報提供：14,485 件
 - 5) 院内製剤加算：実施件数 1,018 件、請求件数 417 件
 - 6) 無菌製剤加算：実施件数 17,862 件 (IVH9,805 件、抗悪性腫瘍 36 件)、請求件数 6,332 件
 - 7) 注射薬混注件数：8,021 件
 - 8) 医薬品安全性情報報告件数：6 件
 - 9) 院外処方せん発行率：79.6%
- 1)~8)はH16.4~H17.3の合計、9)はH16.4~H17.3の平均

4. 薬剤部にて実施した研修および勉強会

薬剤部では、月 2 回、木曜日の 17 時 30 分より約 1 時間、薬剤部員の研鑽と資質向上を目的として勉強会を開催している。

<平成 16 年度の開催実績>

開催回数：24 回、演題：24 題 (内訳は、製品概要説明会 5 回、治験説明会 6 回、業務検討会 1 回、学会向け予演会 2 回、その他 10 回)となっている。

5. 薬剤部員による研修等の講演

<院外>

1. 相良眞一：バーコードを利用したリスクマネジメント，厚生労働省 医薬品・医療用具等対策部会 (東海大学校友会館)，2004.7.21
2. 相良眞一：調剤過誤とその防止対策 調剤薬のリスクマネジメント，杏林大学医学部附属病院薬剤部，2004.7.26
3. 石川洋一：「小児薬物療法におけるデータネットワークの実用性と応用可能性に関する研究」班の活動内容について・適応外使用からの脱却の道・その 3：本格的解決の開始に向けて，日本公定書協会 普及啓発事業 食品医薬品等リスク分析研究事業，アルカディア市ヶ谷私学会館，2005.1.28
4. 相良眞一：国立成育医療センターで実践している医薬品による医療事故防止策である「バーコードを利用したシステム」の紹介，ラジオNIKKEI放送番組，2004.9.1
5. 坂本治彦：「院内感染制御における ICT の役割」薬剤師の立場から，平成 16 年度 院内感染対策講習会，2005.2.10

<院内>

1. 相良眞一： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.4.5
2. 相良眞一： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.4.6
3. 飯島道生： 麻薬・向精神薬等の事故防止のために，第 1 回医療安全・感染対策研修会，国立成育医療センター，2004.4.23
4. 相良眞一： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.5.7
5. 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.7.2
6. 坂本治彦： 薬剤部における感染対策，第 5 回医療安全・感染対策研修会，国立成育医療センター，2004.8.16
7. 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.9.2
8. 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.10.4
9. 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.11.2
10. 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.12.2
11. 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.1.5
12. 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.2.1
13. 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について，平成 16 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2004.3.2

6. 研究助成金による研究

1. 石川洋一（主任研究者），加藤裕久（分担研究者）： 平成 15 年度 厚生労働科学研究費補助金 医薬品等医療技術リスク評価研究事業 「小児薬物療法におけるデータネットワークのモデル研究について」総括研究
2. 石川洋一（主任研究者），加藤裕久（分担研究者），山口正和（分担研究者）： 平成 13～15 年度 厚生労働科学研究費補助金 医薬品等医療技術リスク評価研究事業 「小児薬物療法におけるデータネットワークのモデル研究について」総合研究

7. その他

1. 比留間康二郎，熊田稚子： 花粉症のシーズン到来です． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 28 号，2005.2.4
2. 相良眞一： 国立成育医療センターで実践している医薬品による医療事故防止策である「バーコードを利用したシステム」の紹介． 薬事日報 秋季特集号，2004；10：10-11